

## 令和6年度 学校教育自己診断結果について

### 1. 実施日程

生徒；令和6年12月11日

保護者；令和6年12月6日～13日

教職員；令和6年12月6日～13日

### 2. 回答状況

	生徒	保護者	教職員
回答数	788	489	26
全体数	835	835	47
回答率	94.4	58.6	55.3

### 3. 学年・分掌等からの所見、コメント

#### 【第1学年】

R05年度と比較して5%以上低い項目は10項目、R04年度・R03年度と比較して5%以上低い項目は1項目。R05年度と比較して5%以上高い項目は1項目、R04年度・R03年度と比較して5%以上高い項目は4項目。考察：昨年度と比較して多くの項目で肯定率が低下しているが、2～3年前と比べて低い項目は少ない。むしろ肯定率が高い項目が増加している。特に部活動については上昇傾向にあり学校の特色となる。

「授業には家庭学習をして積極的に取り組んでいる」項目は、R05年度と比べて27.2%上昇し、R04年度・R03年度と比べて約40%上昇。一方、「山高の授業に満足している」項目はR05年度と比べて15%低下し、R04年度・R03年度と比べても約9%低下。

家庭学習時間(平日・休日)では、1時間未満やほとんどしない割合が高く、スマホの平均使用時間は1日5時間以上が多い。考察：家庭学習時間が減少する一方、家庭学習に取り組む姿勢は向上。スマホ利用時間の多さが家庭学習時間に影響している。学力の低下と授業満足度の低下が関連していると考えられるが、授業満足度向上のためには教員側からの改善も必要。また、生徒への連絡の一本化やGoogleカレンダーの活用を提案。

#### 【第2学年】

○生徒(当該学年分) … 1・2・7・19・23・24・29～35について

ほぼすべての項目において過去3年間を上回っているため、生徒はクラスや授業に対して肯定的かつ前向きに捉えていると考えられる。ただ唯一23の項目が下回っているため、原因の究明や朝の準備の大切さなどを話す機会を設けるなどの検討が必要である。また29と30の項目において約7割の生徒の家庭学習時間が1時間未満であることや34の項目において約半数の生徒の携帯電話の使用時間が5時間以上使用していることに今後の検討が必要になると考える。

○保護者 … 1・5・11・12・24について

ほぼすべての項目において過去3年間を上回っている。特に5と11の項目は大幅に肯定率が伸びているため、学年に対する保護者の信用を得られていると考えられる。ただ唯一24の項目が下回っているため、原因の究明と生徒が保護者と話す機会を設けるなどの検討が必要である。

#### ○教職員 … 18・19・20・22・23・28について

ほぼすべての項目において過去3年間を上回っている。特に19、20、28の項目は大幅に肯定率が伸びているため、学年に対する生徒の信用を得られていると考えられる。

### 【第3学年】

#### ○生徒

- ・19については2学期に問題事象が発生したこともあり、より一層の生徒の状況についての見守りや把握が必須だったのではないかと感じた。
- ・29～30については1,2年生の時に比べると学習時間がかなり増えていると感じるが、受験勉強の影響であると思うので当然のことと捉えている。学習時間は増えているが、アルバイトについては半数以上がアルバイトを経験している。生徒個人の様々な生活状況の中でアルバイトは生活の中に溶け込んでいるような印象を受ける。

#### ○保護者

- ・全般的に大きくはないがマイナス傾向なのが気になる。保護者との意思疎通について注意を向けていく必要がある。

#### ○教職員

- ・19については、今後も体制を整えていく必要が大いにあると感じる。
- ・22、23についても同じ。常に意識することが必要。ただマニュアル化しすぎないことが個人的には大事である。柔軟さが必要。

### 【教務部】

観点別評価の始まりも含め、教育課程が改訂して3年が経過しようとしている。この3年間で教科内に留まらず、他教科とも日常的に学校の教育活動について話し合う機会をもつことが増えている。授業においては、基礎・基本の明確化と教材の精選・工夫を行い、生徒参加型などの指導方法の工夫・改善を行っている結果、生徒の授業の理解度は少しずつ高くなっている傾向にある。

また家庭学習に積極的に取り組んでいる生徒は増えているにも関わらず、授業への集中度は少し減少傾向にある。観点別評価をする上で、課題を多く課していないかという可能性も踏まえ、教育活動や評価のあり方について他教科と今後も日常的に話し合っていく必要がある。

生徒一台端末が普及し、授業でも利用する機会が増えている。教職員で情報を共有し、ICT機器の活用スキルを向上させることで、さらに効果的な活用ができると考える。

### 【進路指導部】

#### ○生徒全体

- ・12について、生徒全体でも学年ごとでも、肯定率が約95%と非常に高い数値となっている。学年ごとに進路に関するGoogle Classroomを作成している。学年進路係作成の進路通信や進路Classroomを通じて、常に有用な情報を時間を置かず提供していることが高い肯定率につながっていると思われる。継続していきたい。

・13 について、3年間の進路指導計画にのっとり、学年ごとに指導目標を掲げて、進路指導を進行している。職業ガイダンスや進路分野別説明会、大学・短大模擬授業、看護医療系の説明会や面接講習会、公務員ガイダンスなどの取り組みなど、3年間を通じて、進路に関する取り組みが充実していることが、高い肯定率になっていると思われる。継続していきたい。

#### ○保護者

・12・13・14 について、保護者の肯定率はどの項目も生徒の90%を超える肯定率に比べると、かなり低い。生徒から保護者へ情報があまり伝わっていないことが考えられる。進路に関するものだけでなく、普段の学校、学年の取り組みを保護者向けメール等を通じて、より積極的に直接保護者に伝えていくことで、肯定率は上がるものとする。

#### ○教職員

・26 について、アンケート回答者 26 人で全体の傾向は何とも言えないと思うが、26 は過去 4 年、少しずつ肯定率が上昇している。また、27 は昨年より 10 ポイント以上、肯定率が上昇している。進路指導関係の取り組みについて、職員会議等で、もう少し、細かく伝えていく方が良いか。

#### 【生活指導部】

生徒の「自由と規律」「TPO を考える」をテーマに指導をしており、学校行事では非日常のなかであっても普段と変わらない指導をしている。

生徒に寄り添い、生徒の自主性も育みつつ、誰もが楽しめるものようにしている。

今後は生徒とともに学校・校則を作っていくことも必要であると感じる。

#### 【生徒会部】

学校行事(体育祭・文化祭)に対する生徒の肯定率はどの学年も95%近くあり、生徒の満足感を得ることができている。学校行事を生徒にとってより良いものにするための創意工夫について、教員の肯定率も上がっている。

保護者は学校行事についてはおおむね好意的に捉えている。これらの結果は、大型総合体育館での体育祭開催に関連する教育活動によるものが大きいと考えられる。一方で保護者の回答結果からは、生徒会執行部がより主体的に活動することが今後の課題として読み取ることができる。

#### 【支援教育相談委員会】

教育相談の分野では、概ね肯定率が高い状態が維持されている。保護者の回答で若干肯定率の減少があったものの、生徒(全体)の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」「いじめについて先生が真剣に対応してくれる」ことへの肯定率が変わらないことから、本校の教育相談体制が継続的に機能していると判断できる。また、教職員の「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。」の肯定率が前年度から 6.9 ポイント上昇して 88.4%となっており、本校が教育相談について教職員全体で深く理解し、チームとして協力する体制が構築されつつあることが見てとれる。

#### 【人権教育委員会】

・生徒分:両項目とも約90%の肯定率であり、生徒に対する指導内容は概ね適切であると思われる。

・保護者分:肯定率60%前後と、生徒の評価より低い数値となっている。人権教育の内容が保護者に充分伝わっ

ていない可能性がある。項目22については、校内での事象が評価を下げた可能性がある。

・教職員分：項目32の肯定値は高いが、この項目は「社会規範」=生徒指導的な意味で高くなっているように感じる。項目32～39が、人権教育関係の項目だと思うが、概ね肯定率60～70%程度であり、悪い数値ではない。ただし項目37が、障がい者問題の講演会を行ったわりに低いのが気にかかる。(講師・講演内容に問題はなかったと思うが…)

#### 4. 企画会議の分析(令和6年度学校評価に記載)

##### 1 生徒からの回答について

・全回答の肯定率平均は83.4%と昨年度を1.8%上回り、かつ高い数値を維持しており、本校の教育活動について前向きに捉えて学校生活を送る生徒が多いと判断できる。一方否定的な回答についても一定数あることから、その内容を精査し改善していくことで、生徒がより満足度の高い高校生活を送ることができるよう努めていきたい。

・「授業には、家庭学習をして積極的に取り組んでいる」の項目では昨年度より肯定率が13.2ポイント上昇しているが、割合的には依然低い状況である。また「平日および休日の家庭学習時間」の項目については1時間未満とほとんどしないを足した割合が約60%となっている。単に日常の課題をこなすだけでなく、自ら学ぶ姿勢を身につけ、より質の高い家庭学習を生徒全員が習慣化できるよう指導・支援していきたい。

・学校行事や進路関係、安全安心な学校生活に関する項目は肯定率が非常に高く、これまでの本校の取組みが良い形になって表れている。今後「学校生活についての先生の指導への納得度」についても肯定率を同水準に引き上げていきたい。また「気軽に相談することができる先生がいる」の項目についても支援・教育相談体制を強化することで肯定率80%以上をめざしたい。

##### 2 保護者からの回答について

・回答総数が489件、全生徒の59%の回答があり項目によっても回答数のばらつきがある。

・全回答の肯定率平均は62.2%と、生徒の回答に比べると低い傾向にある。日ごろ学校がどのような教育活動を行っているかを、WebサイトやSNS等を活用してより積極的・効果的に発信していく必要性を感じる。

・「生徒指導面や進路指導面での家庭連絡」、「いじめ対応」、「生徒会活動」、「環境面・安全管理面」については肯定率が50%を割る項目が散見されている。これまで以上に家庭との連携を図りながら、学校の指導方針や運営方針を明確に伝えつつ、保護者の要望に応えられる校内体制を早急に整えていきたい。

##### 3 教職員からの回答について

・17件の項目において昨年度より大幅に肯定率が上昇した(うち10ポイント以上上昇した項目は10件)。

・学習指導面においては、これまでの教員の授業力の向上の取組みが一定成果となって表れている。しかしながら「思考力を重視した問題解決的な学習」、「評価の在り方について、話し合う機会」の項目については肯定率を大きく下げており、今後の授業改善の大きな課題ととらえている。

・生徒指導面についての肯定率は全体的に高いものの、昨年度より若干の下降傾向が認められる。本校では現在生徒指導のあり方が過渡期を迎えており、改訂された現行の「生徒指導提要」の趣旨を十分に踏まえな

から早期に体制を整備すべき重点課題と考えている。また、今後は生徒とともに学校・校則を作っていくことも必要であると感じる。

・人権関係の項目の肯定率平均が約 63%とやや低い傾向にある。学校全体として人権感覚の向上に努め、互いに尊重し合える教育を推進・定着させていきたい。